

月例会ダイジェスト【30】

今年さんぽ会は発足24年目を迎え、4月以降は新役員と新事務局により運営されている。新体制となって初の月例会は「多職種産業保健スタッフの学びの場～より実りある場にするために」と題し、4月14日(木)に開催された。コーディネーターは事務局の2名・金森悟氏(伊藤忠テクノソリューションズ(株))と高家望氏(株東急スポーツオアシス)、引き続き副会長を務める楠本真理氏(三井化学(株)、4代目会長に就任した福田洋氏(順天堂大学医学部総合診療科)の4名。特別ゲストとして「さんぽ会・名古屋」代表幹事の安田博之氏(イビデン(株))が招かれた。

冒頭、金森氏が本日の目的について①さんぽ会の歴史と現状、会長らの意向を伝える、②参加者の求めていることを知る、③効果的な学びの場の創り方の模索、とし②と③について活発な議論を求めた。

続いて福田氏が2分間の手製ダイジェストムービーによりさんぽ会の歴史を解説した。1993年に順天堂大学公衆衛生学(当時)の武藤孝司先生が「現場の多職種が自由に議論できる研究会を」と呼びかけ、講座内の研究会として発足したこと、当初の参加者はほぼ企業専属の常勤産業医・保健師で、20名程度であったこと、武藤先生や歴代会長のエピソード、紙ベースからWebへの広報・告知ツールの変遷、夏季セミナーの記憶等々が語られた。

安田氏は、心臓外科という全く違った畑からこの世界に飛びこんだ当初、実践的な産業保健を知りたいと思っていたところに、縁あって東京で月例会に参加、福田氏と意気投合し2013年4月にさんぽ会・東海(当時)を発足してから現在までの経過、グループワークを重んじる会の特徴等を述べた。「皆、どんなネタでもすぐしゃべる。皆と色々な話ができるのが、私自身のモチベーションにつながっている。人脈を広げる場として、少人数で活動している人たちをサポートしたい」と語った。



福田氏



安田氏

今後の課題の一つ『話題提供』については、ニーズに応えるばかりではなく自分が知らなかったことに気付かせるようなテーマも良いと述べ、お願いとして「こちらの活動をまねして始めた。ぜひますます活性化して欲しい、我々の目標とする会であって欲しい」と熱いメッセージを送った。

ティーブレイクをはさみ、3つの課題について3、4人のグループに分かれてディスカッションを行った。『①多職種産業保健職の学びの場に参加して良かったこと』については「保健師ってこんなに期待されているのか、と気付かされた」「他社の事例、視点が分かった」「勉強になる、やる気が湧く」等の意見があり、『②ここで学びたいこと』については「自分の目指す方向性と人事や医者等が求める方向性のギャップを埋めるためのヒントを得たい」とする保健師の声、学生からは「一人職場で自分が判断しなくてはいけない時や、不安な時はどうしているのか」「何を学んでおけば良いのか、を学びたい」等の初々しい意見があった。『③より実り多き学びの場にするために自分ができること』については、「参加する中でそれを探していきたい」という意見や「新人とベテランが同じものを見たとき、対応がどう違うかを卒業研究にしようとしている。その研究成果をここで共有したい」という学生の意見があった。

副会長の高倉氏は総括として医療スタッフと人事スタッフのコミュニケーションの大切さを訴え、楠本氏は当日とったアンケート『どんな情報が役立つか』の結果で、他職種の意見が聞けるという回答が最多だったことについて「1998年とか2000年にとった結果とほぼ同じ。参加者のニーズは変わっていない」と述べた。高家氏は「共通認識があるのですぐに本題から話せる、まるで《第三の家族》。学びの要素である徳(コミュニケーション・人徳)、知(知識、技術)、体(実践する身体)、感(感性)をすべてカバーしている。学ぶ主体も学びの場を深めていくのも私たち自身ではないか」と述べ、安田氏は「良いですね、ワクワクしてきました。我々も次年度は参加者にコーディネートしてもらいます。却下されるかな」と笑いを誘った。福田氏は「この会には感謝しかない。今までと変わらず、これからも皆さんが求めることをやっていきます」と挨拶。最後に金森氏が「学びの場を創る側になることが一番の学びになると思う、ぜひご協力を」と締めくくった。

さんぽ会の詳細は下記サイトをご覧ください。

- ホームページ <http://sanpokai.umin.jp/>
- FBページ <http://www.facebook.com/sanpokai>